

令和 7年3月13日

公益財団法人

産業構造調査研究支援機構 御中

住 所 東京都日野市大阪上 4-1-1

機関名 実践女子大学

代表者 難 波 雅 紀



産業構造調査研究事業報告書

産業構造調査研究事業の実施について、下記の通り報告します。

記

- 1、研究課題 映像・語り・記憶に見る国内石炭産業のスクラップ・アンド・ビルドと炭鉱地域の労働家族：「夕張デジタルアーカイブ」の構築
- 2、研究代表者 生活科学部生活文化学科 笠原良太 専任講師
- 3、研究実施の概要 別紙のとおり

研究事業に関する実施概要

1. 研究の目的と意義

本研究の目的は、国内石炭産業のスクラップ・アンド・ビルド期（1950 年代後半～70 年代前半）における炭鉱地域と労働者家族の生活を、映像・語り・記憶をもとに記録することである。研究対象は、国内有数の炭都・夕張である。夕張市は、最盛期（1960 年頃）に 18 の炭鉱、約 11 万人の人口を擁したが、その後、北部の炭鉱をスクラップして、南部の炭鉱に集約（ビルド）した。その過程で、多くの労働者家族が夕張域内で移動を強いられながらも、「ヤマ」の共同的生活文化を維持・展開した。現在、三菱大夕張地域はダムの底に沈み、北炭地域は激しく過疎化している。かつてのスクラップ・アンド・ビルドと炭鉱地域・労働者家族の生活を記録することは、戦後日本の産業・地域・企業・家族の関連を捉えるうえで重要な作業である。

夕張には当時の映像資料が他の産炭地と比して豊富に保存されている（「夕張アーカイブ」）。また、域外では同郷会（東京・札幌夕張会、東京・札幌大夕張会など）の活動が活発である。本研究では、映像資料のメタデータの整備を行うと同時に、生活に関する語り・記憶を収集する。そして、映像資料と語り・記憶を結びつけて保存・活用する「夕張デジタルアーカイブ」を構築し、高度成長期における炭鉱労働者家族の生活を立体的に再現する。以上のように、本研究は、社会史研究・ライフコース研究・メディア研究を接合し、発展させる可能性・意義を有する。

申請者らは、2021 年度から夕張市内の三菱系炭鉱を対象とした研究に着手している（映像資料の収集、同郷会会員対象のアンケート調査・インタビュー調査など）。本研究では、これに夕張市内の最大手炭鉱である北海道炭礦汽船（北炭）の炭鉱を対象に加え、三菱との比較をとおして、企業の役割に注目する。スクラップ・アンド・ビルド期から 50 年以上が経った現在、当時の夕張在住者に調査する最後の機会である。

2. 研究体制

本研究は、産炭地研究会（JAFCOF）のメンバーである笠原・嶋崎と「夕張アーカイブ」プロジェクトメンバーである水島・青木の共同で実施した。本研究メンバーは、2021 年度から三菱大夕張炭鉱（鹿島地区）に関する調査研究（科研費基盤研究 C、2021～2023 年度）を共同で取り組んでいる。また、東京・札幌夕張会、東京・札幌大夕張会などの同郷会、小・中・高校同窓会ならびに夕張市教育委員会との連携体制を基盤に本研究を実施した。

氏名	所属	専門分野
1. 笠原 良太	実践女子大学生生活科学部 専任講師	教育・子ども
2. 嶋崎 尚子	早稲田大学文学学術院 教授	家族・労働・ライフコース
3. 水島 久光	東海大学文化社会学部 教授	文化・メディア・アーカイブ
4. 青木 隆夫	夕張地域史研究資料調査室 室長 元夕張市石炭博物館 館長	産業地域史

研究成果に関する実施概要

3. 研究実施概要と成果

(1) 調査研究の実施

本研究では計7回のフィールドワーク（現地調査）を実施した。具体的には、炭鉱関係者へのインタビュー、各関係機関（札幌学院大学、北海道労働資料センター、ゆうばり・歴史教育資料室、夕張地域史調査室、北海道立図書館・文書館、台湾大学、釧路市立博物館・図書館など）所蔵資料の閲覧・スキャン作業、東京大夕張会（同郷会）でのヒアリングおよび研究報告をおこなった。

- ・2024年7月19日～22日（札幌・栗山・夕張）：笠原、嶋崎、水島、青木
- ・2024年11月2日（東京・東京大夕張会）：笠原、嶋崎、水島
- ・2024年11月22日～23日（夕張・栗山）：笠原、嶋崎、水島、青木
- ・2024年12月14日（盛岡）：笠原
- ・2024年12月21日～23日（台北・基隆）：笠原、嶋崎
- ・2025年2月18日～21日（札幌）：笠原、嶋崎、水島、青木
- ・2025年3月4日～6日（釧路）：笠原、嶋崎

閲覧・収集した資料は、大きく分けて以下の4種である。

① 三菱大夕張炭鉱関連写真・地図 899点

- ・主に『ふるさと大夕張の記憶』（読売新聞社、2007年）、2006年に夕張石炭博物館で開催された「大夕張写真展」を書籍化したものをもとに構築。昭和40年代の生活・文化、学校等などに関する写真が中心。夕張地域史調査室（代表：青木隆夫氏）、東海大学文化社会学部水島研究室がデータを所蔵・管理。

② 北炭「笠嶋一氏寄贈資料（笠嶋コレクション）」写真 1643点

- ・昭和40年代の夕張市内炭鉱・市街地の写真を中心に、大正期から昭和期までの炭鉱労働・生活・文化、学校等のようなすがわかる写真。産炭地研究会（JAFCOF、代表：中澤秀雄）ならびに札幌学院大学社会情報学部社会・意識調査データベース作成プロジェクト（SORD、代表：大國充彦）が現物・データを所蔵・管理。

③ 北海道内炭鉱社会報、労働組合機関誌

タイトル	発行者	発行年	号数
炭光	北海道炭硯汽船(株)	1929～1978	6～554
大夕張	三菱大夕張炭鉱	1964～1969	112～174
開発ニュース	三菱南大夕張炭鉱	1968～1970	1～18
三菱南大夕張	三菱南大夕張炭鉱	1970～1987	19～83
地熱	北炭夕張炭鉱労働組合	1957～1977	201～393
炭脈	北炭新夕張炭鉱労働組合	1947～1959	2～156
平和光	北炭平和炭鉱労働組合	1948～1975	1～86
夕張新報	夕張新報社	1971～1975	235～339
夕張タイムス	夕張タイムス社	1940～1987	464～2025
空知よみうり（夕張よみうり）	読売新聞空知販売（夕張よみうり社）	1968～1973	5～126

④ 夕張・空知産炭地関連書籍・写真集等資料

- ・ 2025 年 3 月末の夕張地域史調査室閉室（代表：青木隆夫氏）にともない、所蔵資料を本研究メンバー所属機関の実践女子大学、東海大学、早稲田大学に移管した。そのほか、道立図書館や労働資料センター等で資料収集をおこなった。主な資料は以下のとおりである。

タイトル	発行者	発行年
夕張市統計書	夕張市	1970 年代～
夕張文化	夕張市文化協会	1960 年代～
夕張市内小中学校・高校記念誌・閉校記念誌	夕張市立小中学校・道立高校	1950 年代～
夕張・空知管内炭鉱労働組合解散記念誌	各炭鉱会社・労働組合	1950 年代～
夕張市総合開発計画	夕張市	1970 年代～
石炭時報	石炭鉱業連合会	1960 年代～
市勢夕張	夕張市	1970 年代～
業務概要、職業安定	北海道・夕張公共職業安定所	1970 年代～
国内外産炭地写真集 など		1950 年代～

（２）研究会の実施

上記調査・資料収集に並行して、以下のとおり、全 10 回の研究会を実施した。内容は進捗状況の報告、ディスカッションであり、研究成果のとりまとめを進めた。

第 1 回：2024 年 7 月 21 日、第 2 回：11 月 2 日、第 3 回 11 月 22 日、第 4 回：12 月 26 日、第 5 回：2025 年 1 月 5 日 (Zoom)、第 6 回：1 月 13 日 (Zoom)、第 7 回：2 月 3 日 (Zoom)、第 8 回：2 月 28 日 (Zoom)、第 9 回：3 月 20 日（予定）、第 10 回：3 月 29 日（予定）

4. 研究成果の発信

本研究は地元関係者の協力のもと、当初の計画を上回る調査研究を実施できた。その成果を、以下の媒体で広く公開・発信している。

① デジタルアーカイブの構築

まず、上記調査で収集した三菱大夕張炭鉱関連写真を「大夕張アーカイブ」（東海大学水島研究室ホームページ）に掲載し、各写真に撮影年・地区名・エピソード等のコメントをつけて公開した。このアーカイブを同郷会会員をはじめ多くの夕張出身者に公開し、特定の URL・QR コードから各自が保有している写真とコメントを投稿できる仕組みにしている。2024 年 11 月の東京大夕張総会や夕張市教育委員会を通じて周知した。

② 学会報告・特集論文

2024 年 6 月 15 日に開催された第 72 回北海道社会学会大会シンポジウム「石炭産業の変容と地域社会」にて、笠原が「ヤマの子どもはいかに炭鉱を離れたのか——高度成長期北海道における若年労働力の移出過程」と題して、1960 年代の夕張市内中卒後進路動向について報告した。さらに、7 月以降のフィールドワークにもとづいた内容を加えて、同学会雑誌の特集論文としてまとめた（2025 年 6 月発行予定）。また、鉱業学校卒業生を対象としたインタビュー調査の結果をもとに、子どもの進路選択にみる家族戦略について、第 34

回日本家族社会学会大会テーマセッションにて報告した。

③ 『炭都夕張と 70 年後の約束』（仮） 寿郎社より 2026 年夏刊行予定

最終成果を 2026 年夏刊行予定の書籍で発信する予定である。本書の構成は以下を予定している。本研究メンバーに加えて、産炭地研究会の中澤秀雄教授（上智大学）、島西智輝教授（立教大学）が執筆する。第 2 部の「特集：写真記録——昭和 40 年代の夕張」では、上記のデジタルアーカイブの写真・コメントなどを活用しながら、石炭産業ならびに夕張市のターニングポイントとなる昭和 40 年代の北炭・三菱城下町における労働・生活の特徴を、読者（とくに夕張市民・出身者）にわかりやすく伝えられるように掲載する。

【構成】

はじめに（水島）

序章 夕張をとらえる視角、構造、いくつもの「約束」（嶋崎）

第 1 部：「飛翔」の約束、北炭・三菱の新鉱開発・ビルドアップ、昭和 30～40 年代前半

1. ビルドアップとしての新鉱開発（島西）
2. どのような約束だったのか——解題（島西）

第 2 部：「再起」の約束、労働者の大移動と新しいまち、昭和 40～50 年代前半

3. 北炭夕張新炭鉱への集約・大移動（笠原）
4. 三菱南大夕張炭鉱の開発と大夕張炭鉱の閉山（嶋崎）

特集：写真記録——昭和 40 年代の夕張

5. 新鉱コミュニティでの地域生活・教育・文化（笠原）
6. 期待の炭都（水島）

第 3 部：「蘇生」の約束、新鉱の事故・閉山後、「炭鉱から観光へ」、昭和 50～60 年代

7. 事故と閉山——産業の終焉（笠原）
8. 中田市政の約束（中澤）
9. 「炭鉱から観光へ」——新たな夕張へ（水島）

終章 70 年後の約束（笠原）

おわりに（青木）

年表・索引

5. 研究費の使途

本研究助成の研究費使途は、「経費の使用内訳」のとおりである。当初予定額に比べて、業者委託費が大幅増となった。これは、研究成果刊行が順調に決定したこと、さらに第 2 部の「特集：写真記録——昭和 40 年代の夕張」で上記の写真資料の掲載が可能になり、編集・製作費を支出したことによる。代替措置として、旅費と人件費を大幅に減額した。この点は、研究会のオンライン開催と研究メンバーの他研究費から人件費を充当する等で対応した。

最後に、本研究は、本研究助成により当初計画を上回る内容で充実した調査研究を実施し、充実した成果を得ることができた。貴機構に感謝申し上げる。

経費の使用内訳

費 目	当 初 予 定 額	実 支 出 額
旅費	1,260,000	708,675
・夕張調査(延べ6名)	(51 万円)	(研究調査費用)
・札幌調査(延べ6名)	51 万円	
・東京調査(延べ3名)	24 万円	
委託費	1,100,000	579,695
・ヒアリング文字起こし	(60 万円)	(ヒアリング文字起こし)
・デジタルアーカイブ構築作業	50 万円	(資料スキャン作業費)
人件費・謝金	680,000	27,380
・社内報インデックス作成	(12 万円)	(データ整理)
・学校教育関連資料のスキャン作業	34 万円	(資料スキャン作業)
・映像資料ダビング,データ化作業	12 万円	
・関連資料のスキャン作業	8 万円	
印刷費	50,000	1,500,000
・リサーチペーパー印刷費		(書籍刊行に係る費用)
通信運搬費	100,000	145,771
・リサーチペーパー発送費	(5 万円)	(資料発送費)
・学校教育関連資料発送費	5 万円	
消耗品費	1 万円	234,479
・デジタル資料オゾン用ハードディスク購入費		(資料発送用梱包材)
		(書籍、PC 周辺機器等)
その他	2 万円	4,000
・複写費		(学会参加費合計)
	予算合計	支出合計
	3,200,000	3,200,000